

平成24年8月1日発行

# 鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
福井県三方上中郡若狭町熊川  
TEL/FAX (0770) 62-0330  
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



陶の灯り展(平成24年6月23日・下ノ町にて)

## 陶の灯りで下ノ町が幻想的に

6月23日(土)、熊川公民館で開かれた「蜚の鑑賞会」に合わせて、下ノ町を会場に「陶の灯り展」が行われました。

辺りがすっかり暗くなった8時過ぎ、ピオトーブの蜚を鑑賞した家族連れたちが下ノ町を訪れ、陶の灯りで演出された幻想的な町並みに感動していました。

この陶の灯りは、今年2月に福井ふるさとと百景を活かした景観づくり推進事業の一環として、まちづくり活性化部会が中心となって「陶の灯りとり製作教室」が開かれ、粘土の器にドリルなどで装飾となる穴を開けて作品を作りました。住民ら15名が参加し、製作者それぞれが工夫を凝らしたデザインとなっています。

その後、熊川宿「五兵衛窯」で八〇〇度で素焼きをして、釉薬を掛け一三三〇度で再度焼き上げました。

陶の灯り展はこの後、パレア陶芸教室「どろんこ会」メンバーの作品も加わってお盆の3日間、今度は中ノ町で展示されることになっています。

### 目次

陶の灯りで下ノ町が幻想的に……	1
寄稿文……	2
ニュース・事業計画・話題……	3
事業報告……	4
活動報告……	5
活動報告・名所紹介……	6

## 熊川宿の町並みに思う

平成24年度熊川区長 竹下 清太郎

今も尚、修繕・改築の続いている熊川宿の町並みもきれいな外見・軒先が揃ってまいりました。

前川は今ではきれいななり、ゴミやガレキ等流れてくる事がなくなりました。水量も豊富で透明度もよく、流れが早くよどむ所もなく、町並み風景としては絶景に値すると確信しております。

写真撮影や絵を描く人たちがよく見かけますがきつといつまでも印象に残る所だと思っております。

また、通りかかった歩いている人に「こんにちは」と声をかけると、歩きながら必ずふりむいて返事がかえってきます。お互い知らない人同士で、一瞬の間ですが、ここでも人とのふれあいができたなど少しのもてなし気分を味わっております。

最近、町並みの中に植木鉢、プランターがプラスチックではなく素焼き、木製の入れ物が置かれていることに、これもまた目をひかれます。これから夏の風鈴も一案かと思えますし、アイデアと工夫で、いくらでも古風豊かな可能性が膨らんで来るように思います。

観光は見る、買う、食べる、の三つを目的・楽しみに旅行をすると思えます。これらを少しでもお客様に

満足して頂けるよう一軒でも多くのおみやげ物や食のお店が増える事を願っている処でございます。

## 熊川の見どころ

熊川駐在所 川西 淳一

今年3月から、福井県三方上中郡若狭町にある熊川というところに住むことになり、とりあえず、引っ越しを終えた後、どんなところなのか見るため、町を散策してみることにした。

熊川は国道303号線沿いにある町で、その町中には、「若狭熊川宿」という道の駅があり、さらにその道の駅から町中に向かって、江戸時代をイメージさせる道が延び、その道沿いに数々の家が建てられている。

歩いてみて、ふと、どこにでもある町の風景ではないことに気付いた。熊川の周りは、前川という川と山々に囲まれており、静かなところであることは一目瞭然で、すぐに感じられる。しかし、道沿いに建てられた家は、どれも江戸時代の昔の時代を連想させるような、そんな造りだった。外観は、漆喰と木で造られ、屋根は瓦葺き。これだけの説明では、どこにでもある普通の日本家屋なのだが、何と言っても、外観の2階部分の床から天井までの高さが低くなっていることに興味を惹かれ、目を

奪われた。なんでも江戸時代などの古い時代、殿様がこの熊川の道を通ったときに、2階部分からでも殿様を見下ろさないようにするために、2階部分の床から天井部分が低く造られているそうだった。

熊川の道を歩きながら、もう見ることは叶わない古い時代の人々が往來する風景を想像しながら、散策するのが最近の私の楽しみとなった。

また、夏時分の話になるが、この熊川には蛭がいることを知った。とても驚いたのは、蛭がいたということにも十分驚いたが、それよりも、私が見た蛭は、人の手で育てられた蛭ということだ。都心部から離れ、山と川さえあれば蛭がいるという訳ではなく、きれいな水と緑、昔はそこら中にあった自然が、蛭には必要になる。しかし、それだけでは蛭は生息する訳ではなく、何よりも、蛭を育てるための環境づくりと長く地道な努力が必要となる。

昔は、この熊川に蛭がありふれていたそうであるが、地域開発に伴い、その姿を消したという。しかし、熊川に住む人たちは、蛭が生息する自然を残したいと願い、蛭を育て、熊川に放し、熊川を訪れた人に、蛭が舞う幻想的な光景を楽しませてくれている。これも私が見た熊川の見どころの一つだ。

## 大学での熊川宿

池田 梨紗

気付いたら、観光地になっていて観光客が歩いている。なにが良いのかどんなところに惹かれるのかが分からない。それが、高校生の頃に私が抱いた「熊川宿」のイメージでした。私にとって熊川はいつでも帰れる場所であり、父や祖父母に会える場所でもあります。近所を歩けば、私のことを知っている方々が声をかけてくださる。そんな暖かい地元です。

だからこそ、見慣れた街並みは「日常」であり、わざわざ遠方から足を運んで訪れるような場所ではないと思っていました。しかし、大学に進学し熊川宿を研究対象地区としている高村ゼミに入ると「雰囲気のある街並みだね」といって写真を撮る友人をみて、街並みが評価されるということは住民以外の誰かの評価なのであると感じました。

以前、「熊川宿を研究対象にしても、政策提言だけ掲げて満足してしまう学生が多い」と役場の方がおっしゃっていました。大学の学びのなかで、熊川のような地域コミュニティを扱う際は人間関係が難しく、外部の人間が立ち入れる領域は限られていると感じました。しかし、いつか故郷である熊川のまちづくりにはほんの気持ちだけでも貢献できるように学んでいきたいと思えます。

## 平成24年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会

### 事業計画 (H24.6)

- 4月24日 クラシックカー歓迎  
5月16日 第34回全国伝建協議会総会出席  
～17日 (福岡県八女市)  
5月19日 ツーデーマーチ協力  
5月26日 全国環境自治体会議出席(唐山市)  
6月15日 第1回まちづくり委員会・合同部会  
6月 白石神社の清掃  
6月20日 若狭町伝建審議会  
6月23日 熊川宿ファンクラブの集い  
6月23日 ホテル鑑賞と陶の灯りの夕べ  
(熊川宿ほたる生息研究会主催)  
6月30日 七夕飾り  
7月15日 空き家対策研修(奈良県今井町)  
7月下旬 町並み通信第25号の発行  
8月13～15日 街かど陶の灯り展24  
9月 第2回まちづくり委員会・合同部会  
10月7日 第13回熊川いっぶく時代村  
(町実行委員会主催)  
10月26日 まちづくり・ダム対合同研修  
12月 第3回まちづくり委員会・広報部会  
平成25年  
1月下旬 町並み通信第26号の発行  
2月 熊川宿まちづくり総集會  
3月 平成24年度最終まちづくり委員会

<随時>

- ・若狭ふるさと百景を活かした景観づくり推進事業の実施
- ・空き家を活かした移住推進事業の実施
- ・日本風景街道支援事業の要望
- ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り等
- ・ホームページ更新
- ・委員会、役員会、部会を開催
- ・まちづくり研修・交流会への参加

## 話題 TOPIX

### 空き家を活かした移住推進事業

2年にわたり、熊川宿総合整備推進委員会活性化チームが立命館大学政策科学部高村学人ゼミと連携して空き家調査を行ってまいりました。

今年度、空き家を活かした移住推進事業を進めるにあたり、まちづくり委員会に空き家対策部会が設置されました。(社)近畿建設協会の支援を受けて、今後1年間を通じて実施する事業計画が立てられ、取組みが始まりました。



空き家対策先進地研修

## 国の大賞をW受賞 & 福井ふるさと百景認定

ふるさと  
国交省 手づくり郷土賞 大賞 若狭町 若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
防災まちづくり大賞 総務大臣賞 熊川区自主防災会



手づくり郷土賞認定証授与式



防災まちづくり大賞表彰式

手づくり郷土賞とは…  
地域の自然的・社会的条件に適合した良質な社会資本の整備及び活動を展開し、個性で魅力ある地域の整備を行っている地域が認定される国土交通大臣の表彰です。  
一般部門と、過去に一般部門を受賞した団体の中から選ばれる大賞部門があります。

熊川宿は…  
まちづくりの取組みが評価され、平成12年度に一般部門に認定され、今回大賞部門に認定されました。  
去る2月23日、大阪にて認定証授与式が開催され、若狭熊川宿まちづくり特別委員会と若狭町に対して、国土交通大臣より認定証が授与されました。

防災まちづくり大賞とは…  
消防防科学総合センターの主催で、地方公共団体や地域のコミュニティ、事業所等が行って

いる防災に関する様々な取組みの内、特に優れたものを表彰するもので、今回で16回目となります。  
熊川区の防災まちづくりは…  
区民が一体となって防災事業を進めるなか、防災訓練の実施や近隣火災通報システムの整備などの取組みが評価されたもので、総務大臣表彰は県内初めての受賞です。  
3月11日には、審査委員の方々が防災活動の様子を視察に来られ、3月19日に東京で表彰式が行われました。

平成23年度、福井ふるさと百景を活かした景観づくり推進事業として、濱崎一志先生の講演会、陶の灯りとり製作、プランター製作、打ち水用柄の製作を行いました。  
平成24年度も、様々な景観づくり活動を計画・実施していきます。



打ち水用柄製作



プランター製作

平成23年度  
熊川宿まちづくり総集会

とき：平成24年2月18日(土)午後1時30分  
ところ：熊川児童館  
主催：熊川区・若狭熊川宿まちづくり特別委員会

最初に23年度熊川区長の宮本哲男氏が、区の事業やまちづくり活動を報告されました。

副町長の田辺長生氏は、「皆さんの継続的発展的な努力が認められ、この度の手づくり郷土賞受賞は大変喜ばしい」と話されました。

松岡喜一議員の挨拶、来賓の紹介に続いて、多年に亘り熊川宿伝統芸能の継承と活動に尽力された平尾希典氏に、まちづくり委員会から感謝状が贈られました。

河合健一会長は、「福井ふるさと百景に選ばれ責任を感じている。手づくり郷土賞受賞もありがたい。今日は大雪の中お越しいただき感謝している」と挨拶しました。

講演会では、滋賀県立大学教授の濱崎一志先生が「町並みを育む景観づくり」と題して話されました。その中で先生は「何よりも大切なのは持続可能なまちづくり。自販機などの景観は伝建地区内でルールを考えていく。景観が統一された町並みは20年

後30年後、落ち着いた町並みになる」と彦根市の事例をあげて説明されました。

続いて、空き家対策について調査・協力をいただいている立命館大学政策科学部准教授の高村哲人先生と、高村ゼミの学生たちによる報告がありました。



まちづくり総集会の議案

各グループの代表は、「空き家の実情を調査した「熊川宿の空き家」、広島県空き家バンクの事例を取り上げた「空き家情報バンク」、お寺の住職さんを含むヒアリング調査を行った



濱崎一志先生の講演会

「仏壇問題」について、それぞれがプレゼンテーションをされました。今年も、多くの学生たちが最後まで参加してくださり、活気ある賑やかな総集会となりました。

第34回 全国伝建協議会総会 八女市大会に出席

とき：平成24年5月16日(水)～17日(木) ところ：福岡県八女市

若狭町から田辺長生副町長はじめ、歴史文化課職員と熊川宿から計9名が参加しました。

市民会館で開かれた住民プログラムでは、佐賀県の塩田津、千葉県の佐原、鹿児島県の入来麓の事例発表が行われ、パネルディスカッションと続きました。中でも、佐原の昨年の大震災時の映像は衝撃的でした。

夕方からは会場をメモリアルホールいわ井に移して、情報交換会が開かれました。今までの最多の参加者を数えたそうで賑やかな懇親会となりました。

二日目は午前中、語り部さんの案内で八女福岡の町並みを見学しました。居蔵造りの町家をはじめ、八女矢や提灯の伝統工芸、燈籠人形浄瑠璃の実演を見て回り、途中、茶殻まで食べる珍しいしずく茶を頂きました。



八女福岡の町並み見学

午後からは、文化庁調査官の田中禎彦氏が講演



若狭町・小浜市からの参加者

「住民団体の活動や組織などの活性化をどう進めるか」といったテーマで、妻籠宿、八日市護国地区、八女ふるさと塾と共に熊川宿から宮本哲男氏が事例発表を行い、熱心な意見が交わされました。その中で、後継者問題、空き家対策、車の通行規制などの地区も抱える近々の課題だと思いました。

最後にそれぞれの分科会のまとめを発表する住民全体会議に参加した後、帰路に着きました。

され、伝建地区の現状などをお聞きしました。

その後三つの分科会に分かれ事例発表やパネルディスカッションが行われました。



第一分科会 議案



第一分科会 事例発表



交流会

## 第1回「熊川宿ファンクラブの集い」を開催

と き：平成24年6月23日(土)午後1:30～  
 と こ：旧逸見勤兵衛家  
 主催：熊川宿ファンクラブ  
 協力：若狭熊川宿まちづくり特別委員会・熊川宿おもてなしの会・熊川公民館

設立5年目を迎えた今年、熊川宿のさらなる活性化とファンクラブの充実を図るため、会員のご意見をお聞きし、住民との交流と会員相互の親睦を図りたいと、今回初めて「熊川宿ファンクラブの集い」を開催しました。

当日は、旧逸見勤兵衛家に会員の約半数が集まり、河合健一会長、藤本正夫代表が歓迎の挨拶を、事務局からスケジュール等を説明し開会しました。

続いて、おもてなしの会の女性たちによる大正琴の演奏で、演歌「若狭鮭街道」を唄いました。この曲は



町並み見学



大正琴演奏



道の鑑賞会に参加



懇親会

見学しました。この日は天候にも恵まれ、語り部の案内で初夏の中ノ町を散策しました。

再び旧逸見勤兵衛家に戻り懇親会を行いました。自己紹介では、熊川出身の方から労いの言葉もいただきました。

夕方からは、熊川公民館を主会場に行われた「道の鑑賞会」

に参加しました。会場に訪れた大勢の親子連れたちには混じって、ミニコンサートやパズルで盛り上がりました。

辺りがすっかり暗くなつて、道の乱舞と陶の灯り展を鑑賞し幻想的な世界に浸りました。

その後、宿泊費の一部を補助

する形で、数名の会員にお泊り処「熊川宿勤兵衛」にご宿泊いただきました。

今後皆さんのご理解とご協力をいただきながら、このファンクラブ活動を地道に長く続けていきたいと思

います。また今回頂いたご意見等は今後の運営や活動に活かしたいと思

〔活動報告〕平成24年1月

## 3/20 伝統芸能事始め

(熊川宿伝統芸能保存会)



今年も10日と20日を練習日として、つせんや熊川音頭の練習が始まりました。保存会では、気軽に参加や見学を呼びかけています。4月29日に行われた熊川地区敬老会では、会員による熊川音頭が披露されました。

## 3/24 全国町並み保存連盟理事会

(若狭町)



全国から町並み保存団体や個人会員が集まり、町並みや倉見屋、宿場館などを見学されました。旧逸見勤兵衛家で開催された理事会では、前野まさる理事長や田辺長生副町長の挨拶に続いて「熊川宿まちづくりの軌跡」が上映されました。続いて審議に移られ、休憩時間にはおもてなしの会による葛ようかんが振る舞われました。

## 4/24 クラシックカーが集結

4月21日に大阪を出発して、和歌山、三重、奈良、京都を走破してきたクラシックカー約50台が、熊川宿に集結しました。



La Festa Primavera 2012

大勢の観客が見守る中、往年の名車がズラリと並んだ様子は壮観。お目当てのタレントさんは不在でしたが、街道は曾我廼家福輔さんの実況で盛り上がり、ドライバーはインタビュを受けたら、熊川区の女性たちが振る舞う葛湯で休憩をとりました。



5/26

### 環境自治体会議 かつやま会議

熊川宿から2日目に4名が出席しました。「美しい景観保全のために」というテーマで開かれた第一分科会で、まちづくり委員会副会長の岩本実氏が、歴史の町並みに暮らす熊川宿の取組みについて事例発表を行いました。蜷の育成活動などについて熱心な質問がありました。



5/19

### ツデーマーチおもてなし

(熊川宿・若狭熊川宿まちづくり特別委員会)

快晴に恵まれ、多くのウォーカーが熊川宿コースの熊川宿を訪れました。曾我廻家福輔さんが軽快なしゃべりで歓迎し、女性の会と委員会の女性たちが、前日から準備した「長操饅頭」約一、〇〇〇食を振る舞いました。今や熊川宿の定番となった長操饅頭は、この日も大好評でした。



5/3

### 白石神社祭礼

(熊川宿・熊川宿伝統芸能保存会)

あいにくの雨模様となり、山車の巡行は中止となりました。本殿と本陣でお囃子を奉納した後、マイクロバスに子どもたちを載せて区内を巡行しました。中高生や青年の笛や太鼓に合わせて、雨にも負けず元気に囃しました。昨年は東日本大震災の影響で巡行を自粛しましたが、雨で中止となったのは、山車が復元された平成14年以来、初めてのことでそうです。



6/30

### 七夕飾り

(まちづくり委員会活性化部会)

2週間前からまちづくり委員会のメンバーに呼びかけ、飾り物製作と短冊に願い事を書いてもらい、雨対策のパウチ加工をして準備を行いました。

真夏を思わせる30日午前中、手分けして4本の笹竹に飾り付けをし、西口と中条橋付近に立てました。七夕飾りは涼しげに初夏の風に揺れていました。



6/23

### ホタル鑑賞と陶の灯りの夕べ

(熊川宿ほたる生態研究会  
熊川公民館・若狭町ほか)

親子連れなどが集まり、ミニコンサートが始まりました。焼き鳥やタコ焼きのパザールに多くの人が並んでいました。熊川宿内のピオトープでは、神秘的な光を放って多くの蜷が飛び交っていました。下ノ町では、陶の灯りが幻想的な街道を演出していました。



6/9

### 京都造形芸術大生が研修

芸術学部歴史遺産学科一回生の学生さんたち約50名が来られ、旧逸見勲兵衛家や宿場館を見学後、児童館でまちづくり委員会役員らから熊川宿まちづくりの経緯や活動について聴いていただきました。学生さんたちは熱心にメモをとって、質問をしていました。同大学は白川通り沿いの東山裾野に位置し、一乗寺も近くです。



### 平成の名水百選 前川

環境資源の一つに水量が豊かで流れの速い前川があります。家の前には、かわとや半洗いや洗面が見受けられ歴史的景観を醸し出すと共に、流雪溝・防火用水として大切な役割を果たしています。熊川いっぶく時代村では、「ブリキの金魚レース」が人気を呼んでいます。

### あとがき

この春、国交省の手づくり郷土賞大賞と防災まちづくり大賞のW受賞、さらには福井ふるさと百景の認定など、熊川宿の景観やまちづくり活動について高く評価をいただきました。住民と行政が協力し合って、皆が理解を深め、地道に活動を続けてきた賜物だと思います。

今年度、空き家の活用に向けた事業を進めるため、まちづくり委員会に空き家対策部会が設置されました。難しい問題ですが、幾つかの事業計画が立てられ、取組みが始まりました。

先の全国伝建協議会の中でも、少子高齢化や過疎化による後継者問題、空き家問題が取り上げられていました。また町並みへの車の乗入れや駐車場問題、ソーラーパネル等環境物件の設置の賛否についても意見が交わされました。

熊川宿においても今後、私たち住民の快適な暮らしも守りながら、このような景観整備を考えていかななくてはならない時期に来ていると思います。

(広報委員)